文 化 服 装 学 院
2020 年度　自己点検・評価
内部評価委員による報告書

2021 年 10 月

文化服装学院 2020 年度
自己点検・評価 内部評価委員による報告書

1　教育理念

● 1-1 学校の教育理念

1-1-1 文化服装学院の教育理念、人材育成像

- これまで行ってきた文化服装学院の教育に沿った理念との認識に相違はないが、社会・生活環境の大きな変化を機に見直しを行う機会と捉え、昨年度の学校関係者評価で指摘のあった「グローバル」「留学生」等を意識し見直しを行った。4 つの専門分野の人材育成像等方針が明記されており、本学院の教育理念としてふさわしい。

2　学校運営

● 2-1 法人組織 ／ 2-2 学校組織

申請業務のデジタル化等、課題に進歩は見られるが、結果として効率化されたこと等の現状を把握し課題抽出が必要である。特に本学院としての教育の質保証と、その前提である人材の確保は急務である。

- 新型コロナウイルス感染症対応としてオンライン授業推進特別委員会を新たに組織し、オンライン授業対応の構築が迅速に行われた。
- コロナ禍という特殊な環境の中でも勤務状況の多様なあり方を見出し、業務体系等の見直しや新たな検討への道筋となった点は大きい。今後の業務の効率化に結び付くことが望まれる。
- 創立 100 周年記念事業については今後の取組の加速化に期待したい。

● 2-3 財務状況

学生数の増加による投資と抑制・削減のバランスを管理し、この点で方針を示していくことが肝要である。学園全体としての人員配置の見直しや、学生数を確保し財源の安定につなげることと合わせて退学者数を減少させることへの取組が必要である。

- 入試広報の取組により学生数は維持しているが、財務課題が残る。「合格者数の調整」を本学院として教育効果、収益面からどのような方針をもってとらえるか検討が必要である。
- ファッション特別推薦制度に伴う優秀な学生確保の成果が継続されていることは、この状況において大きく評価できる。

● 2-4 法令等の遵守

2-4-1 法令遵守・ハラスメント対策の状況
2-4-2 諸規定の制定、学則、細則、内規等の整備
2-4-3 個人情報の保護

法令の遵守、情報管理に関しては油断せず、絶え間ない啓蒙と注意喚起が必要であるものの、滞りなく対策が進められ教職員の意識は高まっている。新型コロナウイルス感染症

によりオンライン授業を進めていく中でリモートハラスメント等の新たな課題に対する対策も必要である。

- ハラスメント及び個人情報保護については、環境のオンライン使用等の変化に伴い新たな検討事例が出ることも想定し、より注意深く厳しい目線で注視していく必要があると考える。
- 個人情報の管理においては、現状個々の理解が不足しているため、継続した啓蒙が求められる。

● 2-5 社会貢献等の取組

2-5-1 活動への支援状況
2-5-2 公開講座・教育訓練等

学友会が中心となって始めた「残布を糸に変え、学生作品として甦らせる活動」等、社会貢献活動は行われているが、本学院としての社会貢献の新たな発想に至っていない。オープンカレッジに関してはオンライン対応等により新規受講生が増えたことは評価できるが、設備問題やコロナ禍で実施困難なものも多く、継続して課題への取組が必要である。

- オープンカレッジや通信教育は、コロナ禍で加速したオンライン化によって今後も様々な展開が考えられる。
- 法人として主体的に社会貢献に対する取組を推進していくことが必要である。

3 教育環境

● 3-1 施設･設備

3-1-1 教室・講義室・実習室・研究室・事務室の整備、使用状況
3-1-2 機材・備品の管理状況
3-1-3 IT 環境の整備・管理状況

新型コロナウイルス感染症による授業形態の急速な変化に対応し、機器の購入・整備が行われ IT 環境が整ってきたことは評価できる。教室や実習室等は、本学院の課題においても過去 4 年にわたり取り上げられている恒常的で重要な課題であり、学園全体での管理・調整が望まれる。

- オンライン授業や分散授業に必要な機材を早急に整備する等、コロナ禍特有の課題にも柔軟かつ適切に対処した。
- Wi-Fi 環境が整ったことは評価出来るが、まだ不十分である。学生間で不平等にならないよう早急な対応が必要となる。
- 教室不足の解消は、継続課題として取り組む必要がある。

● 3-2 付属機関･施設

3-2-1 教育・学修支援

施設は利用機会が制限される中、安全・安心を意識し、より一層の内容を充実させるための具体的な検討がなされたと感じる。国際交流センターによるグローバル化の促進は、産学連携や IT を活用し更なる展開が期待される。

- 図書館の入館システム導入による新型コロナウイルス感染症対策や、電子ブック活用促進や宅配貸出等、学生に対し情報や機会を創出し提供する施設として、多方面からの支援を行っていることが評価できる。
- 博物館・ファッションリソースセンター・国際交流センターには今後の情報発信の内容検討及びより高度なオンライン対応に期待したい。

3-2-2 学生生活支援

本学園において学生の生活をサポートする設備・部署で、いずれも競合する学外の業者が存在する中、学生の目線に見合った支援体制と諸問題の対策が行われている。特に学生寮での新型コロナウイルス感染症対応はクラスターが発生していないこと等が評価できる。

- 文化購買事業部の Web 販売のサイトリニューアル遅延や、コロナ禍での文化北竜館の運営に課題が残る。
- 学生寮の感染対策によって、学生が安心して生活出来る環境が整えられている。

3-2-3 研究・対外活動

コロナ禍のため実施が難しいものもあったが、オンラインを駆使することで対応し、ノウハウの蓄積にもなっている。

- 文化・服装形態機能研究所：地道な計測調査は長い目で見て業界全体の利益と貢献であり、障害者衣料の研究についても社会貢献の役割は大きい。
- 文化ファッションインキュベーション：10 年間継続したノウハウをどのように生かすのかが課題である。
- オンラインのノウハウ構築等、今後に繋げる取組の意義は大きい。先を見据えての継続を期待する。

4 学修支援

● 4-1 キャリア支援

4-1-1 就職活動支援・就職状況

4-1-2 企業開拓・関係強化

4-1-3 キャリア教育

就職ガイダンスや合同企業研究会のライブやオンデマンド配信、オンライン面接ブース設置等、新型コロナウイルス感染症対応が評価できる。また、コロナ禍とはいえ企業訪問し就職先確保に努める等の活動も実施しているが、就職率の維持・向上への課題や、コロナ禍での活動支援に課題が残る。

- 就職率向上施策を実施した結果を検証していくことが重要である。
- コロナ禍の中、学生の就職のための各種取組は評価できるが、就職率向上には今以上に努める必要がある。

● 4-2 資格取得支援

4-2-1 資格取得率・状況

コロナ禍ではあるが、受検者の対応や合格率を向上させるための取組がなされている。受検の意義や資格取得のメリットの提示に期待したい。

- 検定試験のメリットを示すためにも業界・企業へ検定の意義を理解してもらう努力が必要である。

● 4-3 学生相談体制

電話やオンライン相談等、多様な学生の対応や工夫がなされており、さまざまな事象に対応すべく組織の構築が進んでいる。今後も継続していく必須材料となると考える。

- 「だれでも談話室」等、オンライン対応にシフトするか検討が必要。
- 様々な問題を抱えた学生に対し、全学で支援していく体制が整ってきている。

● 4-4 経済支援･健康管理

4-4-1 奨学金

4-4-2 健康診断

学生が健全な学校生活を送ることができるよう、経済・健康面において支援体制が整えられている。奨学金の新制度導入の周知や実行ができたことは評価できる。

- 新給付型奨学金が新設され、学生への周知・利用においても適切に対処している。
- 健康診断は新型コロナウイルス感染症の影響を受けるが、滞りなく安全に実施できる体制構築を期待する。

● 4-5 卒業生･社会人への支援

4-5-1 すみれ会(卒業生の会)

4-5-2 再就職・起業支援

コロナ禍のため同窓会イベントの開催は難しかったが、Web サイトリニューアルが行われた。再就職・起業支援についてはコロナ禍の影響も含め、多くの情報収集や提携企業との関係構築、窓口対応等、広範囲について検討を要する。また同窓会の規模を考慮すると、発掘されるべき潜在的な利益は大きく、取組は途上である。

- 在校生への対応として経済支援奨学金制度が新設され、特に新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生の支援へとつながった。
- 再就職・起業支援について、在学時より周知する方法を検討する必要がある。
- 今後卒業生 30 万人のネットワーク活用や 100 周年に向けた取組に期待する。

5　教育活動

● 5-1 学校のカリキュラム編成

5-1-1 文化服装学院のカリキュラム編成状況

改善の方向性が明確であり、各課程にも伝わって実行されている。社会的・業界的に激しく移り変わる情勢の対応もさることながら、検証も怠らずに取り組みたい。

- 企業との連携で時代に即したカリキュラム編成の見直しを随時行っていることが評価できる。
- 業界の変化に対応すべく、カリキュラムの改善に取り組んでいる。

● 5-2 課程のカリキュラム編成、授業研究

5-2-1 服飾専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

課程の目標と課題に沿い各科の特長を明確にし、それに対する取組がなされており、学修成果にもつながっている。検定のための補講や対策をカリキュラムに取り入れたことで合格率が増加したことは評価できる。

- 個々に合わせた自由選択、コンテスト活動時間の確保、検定対策への取組等、多様な学びへの対応がなされて結果に繋がっている。
- 就職に対する下級年次からの意識付けが行われている。
- 対面・オンラインと必要に応じオンデマンド授業を併用し学生指導を行っている。
- コンテスト等の参加意欲向上の取組や、学生個々のレベルの対応がなされている。
- 今回実現できなかったことに関しては新型コロナウイルス感染症の影響である。次回以降に期待したい。

5-2-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成状況

課題に対する取組が行われ、かつ今後の課題へつなげ問題意識を持ち取り組んでいる。企業とのコラボレーションや外部講師を招くことにより学生の意欲向上につなげる等、各科の特長に見合った取組の強化が図られ、成果を上げている。アパレル業界の実状を把握しカリキュラムに反映させる取組の姿勢が課程全般に浸透している。

- 課程及び各科の人材育成象に沿って、課題に対する柔軟な取組がなされている。
- コロナ禍におけるオンライン授業・対面授業の教育効果を検証しながら授業運営を行っている。
- 厳しい環境をポジティブにとらえ、積極的に取り組む姿勢と柔軟さがある。
- オンライン授業及び分散登校、企業コラボレーションへの参加、企業研修等、制限された中でも真摯に実行されたことを評価したい。
- 今回実現できなかったことは不可抗力によるところが大きく、次年度以降に期待したい。

5-2-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

専門的な知識や技術を業界から積極的に取り入れ、時代に合わせコース新設へ向けた取組や産学連携が行われている。学生の理解度や就職意識を高めるための取組がなされている。一部、点検・評価において、結果に対する理由に具体性が欠ける部分がある。

- 各科ともコロナ禍の中、教育の質の維持に向けて善処している。
- 授業内容・キャリア開発授業・インターンシップ・検定試験への取組等では、直接社会との接点を意識して実施している。
- 今回実現できなかったことは不可抗力によるところが大きく、次年度以降に期待したい。

5-2-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成状況、授業内容

業界が求める人材育成へ向けたカリキュラムとして、コラボレーションやコンテストを授業に多く取り入れ挑戦を促し、実務につながる学びを提供している。過去の作品の中から全国販売につながったこと等も評価できる。

- 企業とのコラボレーションやインターンシップを実施しつつも、見直しや改善を講じた。
- コロナ禍の大きな影響を感じさせないのは、調整等を行った結果と考える。今回実現できなかったことは不可抗力によるところが大きく、次年度以降に期待したい。
- 各科ともコロナ禍の中、教育の質の維持に向けて善処している。

5-2-5-1) II 部服装科のカリキュラム編成状況、授業研究

5-2-5-2) II 部ファッション流通科のカリキュラム編成状況、授業研究

時代に合わせた特別講義内容(エシカル)や、検定対策、オンライン授業の活用等工夫がみられた。II 部ならではの多様な学生事情に対応する姿勢がみられる。

- II 部服装科はカリキュラムの修正を行い、II 部ファッション流通科は指導方法の工夫等、多様な取り組みを行っている。
- 各科ともコロナ禍の中、教育の質の維持に向けて善処している。

5-2-6 関連科目の授業研究

コロナ禍であるが、オンラインにおける見せ方を工夫し、新たな教育方法で授業を行っている。タイムリーな情報提供やアパレル製造における SDGs の取組紹介等が行われ、学生の理解や興味へとつなげている。各課程や学年、コースに合わせたカリキュラムの実施が設定され行われている。

- それぞれの科目で、オンライン授業においても学修効果を高めるための取組が行われている。
- 各科ともコロナ禍の中、教育の質の維持に向けて善処している。

● 5-3 学外授業

5-3-1 学外授業の状況

5-3-2 インターンシップの状況

5-3-3 海外研修の状況
5-3-4 コラボレーションの状況
5-3-5 コンテスト活動の状況

コロナ禍ではあるが、実施可能なコラボレーション等感染対策を行い実施できたことは評価できる。しかし新型コロナウイルス感染症のため、学外実習および海外研修等多くが中止となった。今後、非常時の対応として代替案の準備等課題が残る。

- 校外研修等を実施できない非常事態の対応について、反省も含め今後に生かしていくことが重要である。

● 5-4 学校行事

5-4-1 行事の状況

コロナ禍における入学式・卒業式の各教室での実施や、デザイナーを起用したオンラインイベントの開催等、オンラインを利用した行事が行えたことは評価できる。文化祭だけでなく様々な学校行事に関して、時代の変化や新型コロナウイルス感染症対応等含めさらなる検討が望まれる。

- 2020 年度の行事等は感染防止を重視し、実施方法を模索しながら教職員で協力し対応を行ったととらえる。
- 文化祭が対面で行えなかったことは残念であるが、オンラインで行うことで新たな発見や可能性も垣間見えた。

● 5-5 課外活動

5-5-1 学友会（在校生の会）

授業以外の学生の学びや経験の場としての取組がなされている。オンライン・SNS の活用により運営の効率化や情報のクラス共有ができたことも評価できる。今後は社会貢献や企業との取組に繋げ、更なる活動の活性化が期待される。

- コロナ禍でも可能な限り活動をしようとする努力がみられる。
- SNS やオンラインを活用し、活動を継続するための取組がなされている。
- 学友会活動も運営の難しい 1 年であったが、出来ることに前向きに対処していることは評価できる。

● 5-6 教育･成績評価

コロナ禍によるメールの活用や、Web 出席・成績を学生へ公開できたことは評価できる。情報共有が多くなる中、学生や保護者への情報公開、外部講師のフォロー等課題が残る。

- メール等の連絡手段が定着したことで業務進行の改善につながった。今後も、成績評価は適切に行っていくことが重要である。
- 成績登録については、個人の PC・スマホ等でも操作出来るため、セキュリティ強化の取組が必要である。

● 5-7 退学者への対策

様々な学生に対する対応がなされている。コロナ禍ではあるが、退学者が 2019 年度よりも減少したことは評価できる。分析を行っているが、現場へのフィードバックやさらなる対策が求められる。

- コロナ禍での授業体制で退学者が減少した理由を分析する必要がある。
- 経済状況の変化に対応する奨学金の新設等、退学者減少のため対策を行っている。
- 退学者の減少は評価できるが、より減らしていくために対策の継続は必要である。

● 5-8 学生募集

5-8-1 学生募集の状況

5-8-2 広報活動

コロナ禍以前から、入学を希望している世代の特徴を捉えたオンラインの広報活動が活発であった。コロナ禍以降も対面イベントの中止に対応した活動がなされていた。

- オンラインコンテンツの拡張や、地方での独自ガイダンス等、柔軟な施策が入学者の増加につながっている。
- 順当に学生数が増加していることは評価できる。

● 5-9 国際交流

5-9-1 留学生の受け入れ状況

5-9-2 合作校・連携校の状況

5-9-3 外部団体・機関との連携

未入国の留学生の対応等、例年と異なる対応が求められる中で在籍者が前年度並みを維持出来たことは評価できる。コロナ禍とはいえ合作校・提携校や外部団体、海外とのコラボレーションは全体的に受動的であり、課題に対する取組がなされていたとは言い難い。教育効果が期待されるため、非常時においても積極的な取組に期待したい。

- 合作事業がスムーズに行われるよう相手校とのコミュニケーションを密にする必要がある。
- 渡航が制限される中、オンラインでの授業実施等、状況に応じた対応を行っている。
- 日本政府による入国拒否等による未入国留学生への対応等、緊急での対処が必要であったが、オンライン授業等を活用し、滞りなく対処できたことは評価できる。

文化服装学院 2020 年度
自己点検・評価 内部評価委員による報告書

自己点検・評価委員会 内部評価会議
内部評価委員（敬称略・順不同）

相原 幸子、野中 慶子
門井 緑、西平 孝子、野原 美香、宮原 勝一、朝日 真
須藤 久栄、渡井 邦重、吉田　和代

以上